



DAIDO CAMPUS

No.94 2018.07





5/26 sat · 27 sun

第53回大学祭(宴祭)

“Origin” ~心を一つに~

5月26日(土)、27日(日)の2日間、大学祭が開催されました。

今年のテーマは、“Origin” ~心を一つに~。

大学祭に来ていただいた方に、大同大学の大学祭を通じて新たなつながりを持つことができるように。心を一つにして楽しんでいただけるように。という思いが込められています。大学祭実行委員会を中心に、企画を練り上げ、準備をしてきました。当日は、学内だけでなく、学外からも多くの団体が参加し、後夜祭では「SUPER BEAVER」のステージが行われ、最後まで盛り上がる大学祭となりました。





写真提供:アルバム委員会



写真提供:アルバム委員会

男女ハンドボール部

**東海学生ハンドボールリーグ
春季リーグ戦男子優勝!!女子準優勝!**

5月26日(土)にウイングアリーナ刈谷にて、東海学生ハンドボール春季リーグ戦の最終戦が行われ、本学の男子ハンドボール部が優勝、女子ハンドボール部が準優勝しました。

男子は、20日(日)に中部大学との全勝同士の対戦を制し、早々に優勝を決めました! 26日(土)は全勝優勝をかけて昨年の秋季リーグで僅差で敗戦した名城大学と対戦しました。惜しくも【大同大学 26(13-15、13-12) 27 名城大学】で敗戦し、全勝優勝とはなりませんでしたが、最後まで粘り強く戦いました。

女子は中京大学との全勝同士で対戦しました。途中、3点差まで追い詰めながらも、【大同大学 25(12-16、13-14) 30 中京大学】の僅差で敗戦しましたが、準優勝に輝きました。

大会期間中は、大学関係者や、学生が普段ハンドボールを教えている東海ハンドボールスクールの会員、父母、OB、大同グループ関係者が会場に集まり、一体となって声援を送りました。ハンドボール部は引き続き、8月14日(火)~16日(木)に開催される、西日本学生選手権大会(西日本インカレ)に出場します。引き続き、男女ハンドボール部の応援をよろしくお願いいたします!



▲神保学長に優勝報告をする男子ハンドボール部

個人賞受賞者

- | | |
|----|--|
| 男子 | 最優秀選手: 佐藤 快さん(4年) |
| | ベスト7: 三重 樹弥さん(4年)、治田 椋介さん(4年)
間瀬 裕樹さん(4年) |
| 女子 | ベスト7: 山口 遥さん(4年)
新保 佑佳さん(3年) |

佐藤快さん、
佐藤壮一郎監督(男子ハンドボール部)
**6/6(水)付中日スポーツに
親子での挑戦が紹介されました**

6月6日(水)付中日スポーツに本学男子ハンドボール部の主将佐藤さんと佐藤監督が親子で悲願の全国大会制覇を目指す様子が紹介されました。

男子ハンドボール部は今春の東海学生リーグで優勝し、佐藤さんは最優秀選手に選ばれています。

記事では、佐藤さんが家でも父には敬語で会話し、家庭でも大学生活でも接する態度が変わらないことや、中学生時代にはサッカーの名古屋グランパスU-15でGKとして活躍し、ユースチームに進む選択肢もあった中、ハンドボールをやりたいという幼いころから抱き続けた想いが変わらなかったことなどが紹介されています。

佐藤さんは「父を尊敬している。全日本選手権で優勝し、尊敬する父を胸上げたい」という思いで大同大学への進学を選んだと語り、佐藤監督は「コートの中の監督」と佐藤さんに大きな信頼を寄せていると語っています。

悲願の日本一を目指す男子ハンドボール部に、応援をよろしくお願いいたします。



▲6/6(水)付 中日スポーツ

Handball



原田竜汰さん、鈴木真由さん(ハンドボール部卒業生)
伊藤太一さん(男子ハンドボール部)

一般社団法人スポーツクラブ東海にて表彰されました

一般社団法人スポーツクラブ東海にて、ハンドボール部卒業生の原田竜汰さん、鈴木真由さん(ともに経営情報専攻)、ハンドボール部3年の伊藤太一さんの3名が表彰されました。

今回の表彰は平成29年度に東海市に在住・在学・在勤で、スポーツの全国大会等で活躍された選手が対象となります。原田さんと伊藤さんは本学男子ハンドボール部で、全日本学生ハンドボール選手権大会第3位、鈴木さんは本学女子ハンドボール部で、東海学生ハンドボール秋季リーグ戦優勝の成績を収めたことが評価されての表彰となりました。

佐藤壮一郎監督(男子ハンドボール部)、
齊藤慎太郎監督(女子ハンドボール部)

ハンドボール日本代表 男子アンダー強化部会長、 女子アンダー強化副部会長に就任

本学の男子ハンドボール部の佐藤監督と女子ハンドボール部の齊藤監督がそれぞれ、公益財団法人日本ハンドボール協会の2018年度ハンドボール日本代表男子アンダーカテゴリ強化部会長、日本代表女子アンダーカテゴリ強化副部会長に就任しました。佐藤監督、齊藤監督共に2017年度から2年続けての就任となります。男子アンダーカテゴリ強化部会長は24歳以下(U-24)、21歳以下(U-21)、19歳以下(U-19)の各年代の代表の強化を統括する要職であり、昨年は男子ユース代表(U-19)が世界選手権で日本ハンドボール界史上最高位の8位になるなど、結果を残しています。9月に行われるアジア選手権に向けて、4月25日(水)には本学石井記念体育館にて男子ユース代表(U-19)の強化練習が行われました。

齊藤監督はU24女子日本代表のアシスタントコーチも兼任しています。

佐藤監督、齊藤監督と日本代表のさらなる活躍に期待しています。

ハンドボールスクール「大同キッズ」が始動

地域の小学生を対象に、男女ハンドボール部の協力のもと、大学生と触れ合いながら楽しく成長できるハンドボールスクール「大同キッズ」が4月21日(土)、本学石井記念体育館を拠点に活動を開始しました。

大同キッズは、男子ハンドボール部の佐藤壮一郎監督が大学近隣の柴田小学校で道徳授業の講師を務めた際、生徒の体力低下や運動機会の減少を知ったことがきっかけとなり、子どもたちに楽しくスポーツをする機会を提供することを目的として発足しました。指導者は、男子ハンドボール部の八田忠コーチが務めます。

10月から2月にかけて実施した体験会では、大学生との触れ合いや楽しそうな雰囲気が参加者や保護者から好評価を受け、現在40名を超える参加申し込みを受け付けています。

21日(土)の第1回活動では、全体説明会を行った後、ハンドボールの練習を行い、子ども達がスタッフと楽しそうに活動する様子が見られました。

大同キッズでは「好きこそものの上手なれ」をスローガンに掲げ、大学生と一緒に楽しく練習することや、トップレベルの試合を観戦することを通じてハンドボールを好きになることで、子どもたちの自発的な努力・成長を促すことを重視します。

また、主催者が本学の職員であること、本学のハンドボール部の協力を受けられることから、施設の利用や用具の提供を無償で受けることができるため、参加者の負担は年間2,000円程度と格安に抑えられています。

現在は、1年で愛知県内の大会に出場することを目標として活動しています。

関連記事: [大同キッズ体験会を開催しました\(男女ハンドボール部\)](https://www.daido-news.jp/daido_news/student/post-46.html)

https://www.daido-news.jp/daido_news/student/post-46.html



〈大同キッズ 活動内容〉

日時: 毎週土曜日 18:00~19:30(月3回程度)

場所: 大同大学石井記念体育館

費用: 2,000円(保険料、協会登録費として)

指導者: 八田 忠

(大同大学事務職員、男子ハンドボール部コーチ)

協力: 佐藤 壮一郎

(大同大学教授、男子ハンドボール部監督)

齊藤 慎太郎

(大同大学教授、女子ハンドボール部監督)

大同大学男女ハンドボール部

ブログ: <https://daidokidshandball.wordpress.com/>

メール: daidokids@gmail.com



ボウリング大会

6月2日(土)、クラブ委員会主催のボウリング大会が行われました。投球練習からボールが投げられる度に歓声が上がりました。終始、大変な盛り上がりを見せ、各クラブが絆を深めることができました。

表彰式では、団体・個人別で上位とランダムな順位に景品が用意されており、ハイスコアを取れなかった人も最後まで楽しんでいました。

団体賞

順位	チーム名	団体名
1位	ばどぶっち!	バドミントン部
2位	大祭2	大学祭実行委員会
3位	学生部	教職員



写真提供: アルバム委員会

谷口真伍さん、吉田信吾さん(工学研究科 修士課程) (公社)日本鑄造工学会・ 第171回全国公演大会にて発表しました

5月19日(土)~20日(日)神戸国際会議場で開催された、(公社)日本鑄造工学会・第171回全国公演大会にて、大学院 工学研究科 修士課程 前田安郭研究室 1年の谷口真伍さん、吉田信吾さんが発表しました。谷口さんは「湯口方案と注湯方法がアルミニウム合金鑄造の充填挙動に及ぼす影響」、吉田さんは「粒度分布を考慮した離散要素法 (DEM) を用いたスキーズ圧縮シミュレーション」と題してそれぞれ発表しました。

前田研究室HP: <http://yasuhiro-maeda.com/>



▲左から: 谷口さん、吉田さん

石川悠太さん、西村優希さん(工学研究科 修士課程) 一般社団法人軽金属学会134回 春期大会で口頭発表を行いました

5月26日(土)～27日(日)、熊本大学にて開催された一般社団法人軽金属学会134回春期大会にて、大学院 工学研究科 修士課程 高田健研究室 1年の石川悠太さんと西村優希さんが口頭発表を行いました。



▲左から:西村さん、石川さん

本学会はアルミニウムやマグネシウムを中心とした軽金属を対象とした学会です。石川さんは「Al-Mg-Si合金における加工ひずみのクラスタ形成への影響」、西村さんは「Al-Mg-Si合金におけるひずみ付与が析出物形成に及ぼす影響」と題して発表を行いました。

波多野光さん、武藤将史さん (建築学科 建築専攻/インテリアデザイン専攻) 日本建築学会東海支部 学生優秀学術講演賞を受賞しました



▲受賞者と指導教員(左から:波邊教授、武藤さん、波多野さん、高橋講師)

2月19日(月)～20日(火)に名古屋大学で開催された日本建築学会東海支部研究集会において、高橋之研究室 4年の波多野光さんと渡邊慎一研究室 4年の武藤将史さんが日本建築学会東海支部学生優秀学術講演賞を受賞しました。

この賞は、若手の優秀な講演を顕彰し、当支部の研究活動の活性化を図ることを目的として、東海支部研究集会で講演した修士課程(博士前期課程)大学院生・大学学部生、高専学生の中から、講演が優秀であったものが表彰されます。受賞者の数は、全審査対象数の10%程度で、今回は15名が表彰され、そのうちの2名が本学からの受賞となりました。

波多野さんは構造分野で「隣接する複数開孔を有する鉄筋コンクリート造梁のせん断耐力に関する実験」を、武藤さんは環境分野で「屋外におけるマネキンを用いた紫外線防御アイテムの遮蔽効果の測定」を発表しました。波多野さんは「建築学会東海支部から賞をいただくことができ嬉しいです。指導教員と研究を手伝ってくれた仲間のおかげでいただいた賞だと思います。皆さま有難うございました。」と、武藤さんは「自分が気になっていた紫外線を研究テーマにしました。先生のご指導の元、充実した研究ができたと思います。研究成果を評価して頂き本当にうれしいです!」とコメントしています。

日比野晟正さん(情報学研究科 修士課程) 日本図学会中部支部冬季例会で 奨励賞を受賞しました

3月1日(木)に、本学で開催された日本図学会中部支部冬季例会で大学院 情報学研究科 修士課程 横山弥生研究室 1年の日比野晟正さんが若手の優秀な発表に送られる奨励賞を受賞しました。



▲日比野さん

日本図学会は、機械工学、情報工学、建築、美術、各種デザイン等、多様な分野の専門家が、図や形を扱う立場から、図形の幾何学的性質や表現方法に関する研究、コンピュータグラフィックスに関する研究、図形の創造的能力や認識能力の研究とそれらの知見に基づいた教育方法に関する研究等において研鑽を重ね、その研究成果を互いに情報交換し合う場として設立された50年以上の歴史がある学会です。

日比野さんは「タイルの幾何学パターンを応用したデザイン手法」というテーマで研究発表を行い、今回の受賞に至りました。

日比野さんは受賞に際し、「タイルは丈夫で汚れにくいという特性があるほか、形状変化させることで与える印象も大きく変えられる、可能性を秘めた素材です。今回の発表後、他大学の先生方から思いもよらなかった着眼点からの意見をたくさん頂きました。頂いた意見を活かして、引き続きタイルを用いたデザインの研究に取り組んでいきます」とコメントしました。

総合情報学科 経営情報専攻、 命をつなぐプロジェクト学生実行委員会

天白区島田学区御前場自治会50周年 記念事業の環境ブースに出展しました

5月20日(日)に開催された名古屋市天白区島田学区御前場自治会50周年記念事業に、本学の経営情報専攻の学生と本学の学生が多く所属している「命をつなぐプロジェクト」学生実行委員会の学生達が環境ブースを出展しました。本学の学生はペットボトル風車、学生実行委員会の学生は外来種輪投げを出展し、多くの子供たちがペットボトル風車を作ったり、外来種の写真が貼ってある竹的へ輪を投げて遊びました。

ペットボトル風車には、経営情報専攻3年の清水裕さん、戸島真之さん、成田大雅さん、加えて今年の3月まで経営情報専攻に在籍していた東京理科大学1年の大沢智嗣さんが参加し、外来種輪投げには、土木・環境専攻の中村陸さんの他に、中部大学、人間環境大学、椋山女学園大学の学生が参加しました。



▲環境ブース(ペットボトル風車)



▲環境ブース(外来種輪投げ)

吉見春輝さん(情報システム学科 コンピュータサイエンス専攻) カヌーポロU-21日本代表に2年連続で 選出されました!

カヌーポロU-21日本代表に、本学のコンピュータサイエンス専攻3年の吉見さんが2年連続で選出されました!



▲昨年の世界選手権大会に向けての練習の様子

カヌーポロとは、1人乗りのカヌーに乗って水上で行うハンドボールとバスケットボールを融合したようなスポーツです。カヌーに乗った5人が1チームとなり、垂直に立てた板のゴールにシュートをし得点を競い合います。

吉見さんは5月17日(木)~24日(木)にはドイツ・エッセンに、日本代表選手として海外遠征に派遣され、その後7月28日(土)~8月7日(火)にはカナダのウェランドで行われる世界カヌーポロ選手権大会に出場することが決定しており、世界選手権大会の出場についても2年連続となります。

吉見さんの活躍に期待しています!みなさまも応援をよろしくお願いします。

関連記事:

[カヌーポロU-21日本代表に選出されました!\(吉見春輝さん\)](https://www.daido-news.jp/daido_news/student/-21.html)

https://www.daido-news.jp/daido_news/student/-21.html



中川真佑さん(フィギュアスケート同好会) フィギュアスケート中部学生新人歓迎 フリー大会ジュニア選手権クラスで3位入賞

6月3日(日)に邦和スポーツランドにて行われた、フィギュアスケートの「第42回中部学生新人歓迎フリー大会」にて、本学フィギュアスケート同好会 3年の中川真佑さんが、ジュニア選手権クラスで2年連続の3位に輝きました。ジュニア選手権クラスは日本スケート連盟で定められているバッジテストの5級または6級の取得が出場要件となっており、中川さんは6級を取得しています。



▲中川さん

B棟1階丸善前学生ホール 空間デザイン (内装設計)提案を募集しています

後援会の援助(500万円)を受け、B棟1階丸善前学生ホールを改装します。改装完成時期は平成31年3月を予定しています。

学生室では、学生の皆さんからの空間デザイン(内装設計)提案を募集しています。学生ホールとしての機能性や雰囲気を考慮した提案を求めています。

応募された提案は、学生部等(後援会長等役員、学生部長・学生部次長、学生室員等)で審査され、優秀提案を数点選び、学生プレゼンを経て、採用提案を決定します。平成30年11月に採用提案を本学のホームページや掲示板等で発表する予定です。詳細はホームページをご覧ください。

募集要領・問い合わせ先:

https://www.daido-news.jp/daido_news/notice/b1.html



音楽研究部 学内や大学周辺で 清掃ボランティアを実施しています

大学祭やオープンキャンパスなど、学内の様々な行事でライブ演奏を行う音楽研究部は、毎週木曜日の昼休みに清掃ボランティアを実施しています。

実施場所は滝春キャンパスの駐車場・駐輪場、クラブハウス周辺や、学外では滝春南公園を中心に清掃しています。前部長である総合機械工学科4年の鬼頭侑生さんは、「自分が入学する前から音楽研究部の活動の1つとして行われており、スタジオなど施設を使わせてもらっていることへの感謝の気持ちを込めて実施しています。現部員は50名程度ですが、この活動は全員参加です。これだけの人数が集中してやるときれいになって気持ちがいいです。もちろん今後も続けていく予定です」と話しました。

硬式野球部 愛知大学野球 春季リーグ戦 3部Bリーグで1位になりました

愛知県大学野球連盟が主催する愛知大学野球春季リーグ戦3部Bリーグで本学の硬式野球部が1位となりました。

3部Bリーグは大同大学、名古屋工業大学、南山大学、名古屋市立大学の4チームで争われ、本学硬式野球部は見事7勝1敗で勝率1位となりました。今シーズンのチームはエースピッチャーである建築学科 土木・環境専攻4年の出口智也さんを中心に、「守る野球」でここまで勝ち進んできました。

5月26日(土)には3部Aリーグで優勝した名古屋経済大学との3部優勝決定戦に臨み、3部優勝決定戦でも今まで練習で積み重ねてきたことを発揮できるように頑張りますと主将である総合機械工学科3年の富田倫弘さんは意気込んでいました。

大同大学の教育に対する熱さを伝える 新コンテンツがホームページ内に完成!

学生と日々向き合う教職員の「人を育てる熱い想い」を伝える「情熱主義」と、実学主義の理念の下行われている授業の実践例を紹介



する「実学教育」の2つの新コンテンツが、本学ホームページにて公開されています。ぜひご覧ください。

情熱主義
<https://www.daido-it.ac.jp/jyonetsu/>

実学教育
<https://www.daido-it.ac.jp/jitsugaku/>



篠原主勲研究室(機械システム工学科)

瀬戸蔵ロボット博2018に出展しました

3月21日(水・祝)～27日(火)に瀬戸市のパルティセにて開催された「瀬戸蔵ロボット博2018」に、機械システム工学科 篠原研究室が出展し、有松・鳴海絞りを展示・実演しました。出展のブースでは篠原



▲有松・鳴海絞りを着用した絞りに体験の様子

研究室の学生7名が交代で説明を担当しました。

21日(水・祝)、25日(日)には、有限会社こんせいの協力で絞りを着用した絞りに体験を行いました。それぞれの日で絞りに体験のために用意したハンカチ150枚が午後3時頃には終了するほど好評で、ブース前は体験を希望する親子連れで行列ができました。開催期間中、会場には全体で約56,000人が訪れ、大変賑わいをみせました。

有松・鳴海絞りは、現在も精密加工の有限会社名南機械製作所および鳴海絞業者の(有)こんせいとの共同研究が続いており、篠原研究室で西堀名誉教授と共に改良が行われています。

関連記事: 研究室紹介

「愛知の伝統工芸、有松・鳴海絞の技術をロボットで伝承していきたい。」

(篠原研究室)

<https://www.daido-it.ac.jp/dept/system/lab/>



杉本幸雄研究室(情報デザイン学科 メディアデザイン専攻)

大学プロモーションビデオ第5弾完成!



▲学内ロケの様子

メディアデザイン専攻の杉本研究室が、杉本幸雄教授のサポートのもと、監督・助監督・照明等のスタッフを担当し、大同大学のプロモーションビデオを制作しました。

ストーリーや、絵コンテの作成、施設の借用や出演交渉から、セリフや音、演出、編集まですべてを学生が担当し、4月2日(月)～4月4日(水)の3日間で学内ロケを行いました。

このプロモーションビデオは、6月3日(日)に開催されたオープンキャンパスで初お披露目され、ホームページでも公開予定です。どうぞ楽しみに!

過去のPVはこちらからご覧いただけます

<https://www.daido-it.ac.jp/gallery/>



建築学科 建築専攻/インテリアデザイン専攻

ミラノ工科大学の先生を迎えて「C-Scape」講評会を実施しました

4月5日(木)に本学とミラノ工科大学の連携授業「C-Scape」の講評会を行いました。2017年度の「C-Scape」の設計課題は、イタリアのカザルサという街にある旧軍事施設の再開発計画でした。カザルサは、ワインの生産地として有名な街であり、冷戦にまつわる巨大な軍事施設が現存しています。しかしながら、現在はこの軍事施設の大部分は機能しておらず、再び地域コミュニティの一部として街に還元されることが望まれています。学生は、既存の旧軍事施設を活用しながら冷戦博物館、ワイナリー、レストラン、宿泊施設などを再計画しました。「C-Scape」ではこの11年間、このように実在する都市や建築が抱えるリアルな問題に対し、建築的なアプローチで解決する試みを継続的に行っています。

講評会では、学生が独自の視点から作成したプレゼンシートと模型を用い、英語で発表を行いました。ミラノ工科大学のLuca.M.Fabrizi准教授は、「大同大学の学生の発表は柔軟な発想をベースにした夢のある内容になっており、どれも大変興味深いものでした。ミラノ工科大学において「C-Scape」で大同大学の学生と共通の課題に取り組むのは修士課程の大学院生です。建築物の構造計算を伴う、より現実の制約条件が厳しい状況下での設計となります。ミラノの学生の作品はより現実的かつ理論的であると言えますが、大同大学の学生の発想力、表現力、制作模型の緻密さはミラノの学生に引け

を取りません。学部3年生でよくここまで作品を作り上げたと感じました」と評価していました。

2018年度の「C-Scape」の設計課題は、岐阜県白川町を想定しています。白川町は山間の静かで美しい街ですが、全国的に問題となっている地方都市の過疎化や空き家問題が顕在化するなどの課題を抱えています。すでにプロダクトデザイン専攻が白川町と特産ヒノキの製品化の共同開発を開始しており、プロダクトデザイン専攻とのコラボレーションも含め、白川町が抱える問題に対してどのようにアプローチするのか、楽しみな課題となりそうです。



▲講評会の様子

上岡和弘研究室(情報デザイン学科 メディアデザイン専攻) 日本広告学会CRF2018ポスター セッションで発表、鈴木さんが 学生部門銅賞を受賞しました



▲大会会場にて(左から:上岡教授、西山さん、鈴木さん)

5月12日(土)に、金城学院大学で行われた、日本広告学会主催「クリエイティブ・フォーラム2018」のポスターセッションにて、上岡研究室から大学院 情報学研究科 修士課程 西山直弥さん、メディアデザイン専攻 鈴木翔悟さんの2名が発表しました。

西山さんは、「AQPR～DAIDO UNIVERSITY UEOKA Lab. Aichi Quality PR Project～」として、6年目に入った同研究室の愛知県産業振興課との連携活動概要と、自身の学部生時代の研究成果を発表しました。

鈴木さんは、名古屋市南区との連携による地域社会福祉への取り組みを発表しました。中でも鈴木さんの発表は『高齢者外出のきっかけ作り情報誌～南区いきいきMAP(2016)』、『高齢者見守り活動啓発PV～見守り実況中継編(2017年)』、『包括的な高齢者見守り活動研究対策検討会議メンバー(2018)』と、地域社会との継続的な取り組みが評価され、見事、学生部門で銅賞を受賞しました。

『地域社会の課題と向き合うクリエイティブ』をテーマに掲げる上岡研究室ではこれからも様々な課題に取り組んでいきます。

関連記事:

区より依頼を受けた「高齢者見守り活動啓発PV」の完成披露発表をしました.....

https://www.daido-news.jp/daido_news/student/pv-1.html



区より依頼を受け「高齢者見守り活動啓発PV」を製作しています.....

https://www.daido-news.jp/daido_news/teacher/pv.html



区より依頼を受け「南区いきいきMAP」を作成しました.....

http://www.daido-news.jp/daido_news/teacher/post-11.html



上岡研究室ホームページ.....

http://www.aichi-brand.jp/AQPR_UeokaLab/



情報デザイン学科 プロダクトデザイン専攻 展覧会「NEW IDEAS」を 本学展示室にて開催しました

4月12日(木)～26日(木)まで本学展示室にて展覧会「NEW IDEAS」が開催されました。

ニューヨークの由緒あるギャラリー Medialia...Rack and Hamper が主催するNEW IDEAS展は、フィラデルフィア芸術大学(USA)にメダル芸術を紹介する目的で、1998年から現在まで続いている珍しい展覧会です。

2001年、ポルトガルにあるリスボン大学がパートナーになり、以降毎年第三大学を招待して行われています。大同大学は今年もその第三大学として選ばれ、プロダクトデザイン専攻有志学生が作品制作に奮闘しました。

展覧会では各大学から約12人が構成され、NYの冬の展示を皮切りに、本学が春展示、リスボン大学が秋展示とリレー形式で行われます。

メダルというと半立体的でレリーフ上の形をしたものをイメージしますが、立体と平面双方の特徴を兼ね備え、「手の平の芸術」とも呼ばれています。メダルという概念を打ち破る自由な発想と製作者のこだわりが表現されることが重要で、小さな彫刻作品と言って良いのかもしれませんが。

昨年の展示の様子は以下のURLからご覧いただけます。

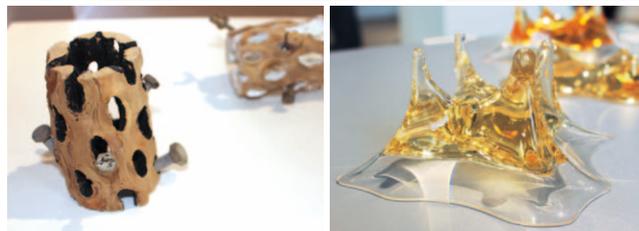
関連記事:

展示会「NEW IDEAS」がリスボン大学で開催されました

https://www.daido-news.jp/daido_news/student/new-ideas.html



▼展示の開催期間中に本学を訪問していたミラノ工科大学のLuca先生が作品を観覧している様子



情報デザイン学科 プロダクトデザイン専攻

白川町の特産ヒノキ(東濃ヒノキ)の製品開発プロジェクトで製品化が決定!

2017年3月からプロダクトデザイン専攻の有志学生約30人が取り組んでいる、白川町の特産ヒノキ(東濃ヒノキ)の需要拡大と魅力ある製品開発を目標としたプロジェクトで、学生が提案した作品の製品化が決定しました。

昨年7月に白川町で行われた報告会で本学の学生から24点の試作品が提案されました。その中から、プロジェクトに携わる多くの方や木工業者の意見を取り入れ、「積み木」「ネクタイピンとピンバッジ」「ポケットティッシュボックス」の3点の製品化が決まりました。木工業者との製品改良の意見交換、採算性の見直し検討、生産体制の確立など、様々な課題を乗り越えてここに至りました。

学生の指導に携わったプロダクトデザイン専攻の横山弥生教授は、「どの製品も東濃ヒノキの温かみと香りの特徴を活かした素敵な

製品になりました。他にも良いアイデアはたくさんありましたが、コストや生産体制など現実的な問題を考慮して、3作品の製品化が決定しました。学生たちには自分たちが手掛けた作品が製品化される喜びと、優れた作品の全てが製品化されるわけではない現実を噛みしめ、この経験を今後の制作活動に生かしてもらいたいです。」と話していました。また、このプロジェクトの繋がりが卒業研究にも生かされ、東濃ヒノキを使用した作品展開を続けていく予定です。

関連記事:

白川町の特産ヒノキの商品化に取り組んでいます
(プロダクトデザイン専攻)

https://www.daido-news.jp/daido_news/teacher/post-62.html



▼左から:「積み木」「ネクタイピンとピンバッジ」「ポケットティッシュボックス」



総合情報学科 経営情報専攻

「海外事情2」の様子が地元の新聞に取り上げられました

経営情報専攻が科目「海外事情2」で行っている泰日工業大学への短期留学の様子が、5月9日(水)付現地タイの新聞に取り上げられました。

記事では、留学に参加した学生が、タイの伝統的な寺院と建築に触れたことや、マングローブ林でマングローブの苗を植えたこと、現地の人と交流したことなどが写真とともに紹介されました。



▲タイの新聞



▲タイのネットニュース

神保睦子学長

名古屋市教育委員会の公開講座で講師を務めました

5月26日(土)に開催された、名古屋市教育委員会生涯学習課主催の公開講座『「いま」を読み解く女性が輝くとは～女性と家事・育児と仕事～』で、神保学長が講師を務めました。神保学長の仕事と家庭の両立や大学での取り組みなど、ご自身の経験から女性の生き方について講演がなされました。

「いま」を読み解く 当日先着順350人
女性が輝くとは
～女性と家事・育児と仕事～
大同大学学長 神保睦子さん
日時 平成28年5月26日(土)
10:30～12:00 開場予定10:00
会場 イーブルなごや 3階ホール
(名古屋市女性会館)
定員 20人 (事前申込) 要予約制・参加無料
【費用の心配】 無料(当日1歳未満の小児は入場料がかかります)
【申し込み】 申し込みは4月26日までです。申し込み締切日: 4月26日(金) 17:00まで受付可です。申し込みは下記「申し込み」のURLから「申し込み」が可能です。
【講師プロフィール】 1951年3月、名古屋大学工学部工学研究科博士課程修了の工学博士。大同大学工学部材料科学科教授。講演、出版活動を経て、2011年より、大同大学工学部電気電子工学専攻を統括。2017年より名古屋市教育委員会委員。名古屋市立大学で初めて採られた女性学長となる。研究内容は、主に、産学連携、産学連携推進事業の推進に関する研究。専攻で電気工学専攻推進委員会委員長を務める。今回は、仕事と家庭の両立や大学での取り組みなど、ご自身の経験から女性の生き方について講演がなされました。
【問い合わせ先】
イーブルなごや (名古屋市女性会館)
(名古屋 南平野駅前通センター・女性会館)
〒460-0015 名古屋市南区大沢町7-25
TEL: 052-331-5351 FAX: 052-332-4668
開館時間: 9:00～21:00 (日曜・祭日を除く)
○休館日: 祭日(要予約) (要予約は052-332-4668)
○地図: 名古屋3区地図・東区南平野
ホームページ: <http://www.e-buro-nagoya.jp/>

▲講座のチラシ

前田安郭教授(機械工学科)

日本 Casting 工学会で「西山圭三賞」を受賞しました



▲授賞式の様子

5月19日(土)に開催された(公社)日本 Casting 工学会総会にて、「西山圭三賞」を前田教授が受賞しました。

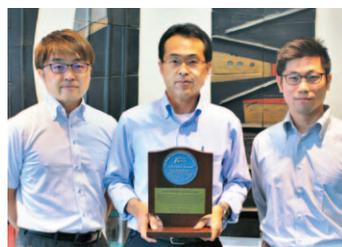
「西山圭三賞」は Casting に関する学問及び技術の進歩・向上に寄与した者に贈られます。前田教授は「生型砂造型の搗き固め機構の解明と湯流れ・凝固に関する Casting CAEの研究」のテーマで受賞となりました。

田中浩司教授(機械工学科)

APDIC Industrial Awardを受賞しました

5月27日(日)～6月1日(金)にメキシコで開催された国際会議『International Conference on Computer Coupling of Phase Diagrams and Thermochemistry』にて、田中教授が前職でトヨタ自動車と共同で開発したレーザクラッドバルブシートが、APDIC Industrial Awardを受賞しました。なお、APDICは合金状態図の国際委員会です。

昨年、日米で発売された新型カムのエンジンはTGNAという高効率燃焼型の標準となり、これからも車種拡大が図られます。



▲中央:田中教授

バルブシートはエンジンの吸気ポートを守る耐摩耗材で、今回レーザで特殊な銅合金が肉盛りされています。この合金設計において計算熱力学を存分に活用したことが評価され、受賞に至りました。

植田俊明教授(電気電子工学科)

国際大電カシステム会議で発表しました

5月5日(土・祝)に米国フロリダ州クリアウォータ市にて、国際大電カシステム(CIGRE)の会議が開催され、植田教授が発表しました。

CIGREの技術委員会C.4.39では、送電用避雷装置の適用技術に関する国際ワーキンググループを組織し、年2回会議が開催されています。

近年、送電用避雷装置が送電線に多数設置されるようになり雷による停電防止に大きな効果を発揮しています。今回、植田教授は「77kV変電所で観測された侵入雷サージからみた送電用避雷装置の効果」について発表を行いました。送電用避雷装置動作時の変電所侵入雷サージ波形は大変貴重なデータであり、変電所過電圧の低減効果を示すものとして高く評価されました。



▲会議での発表の様子

中島貴光准教授(建築学科 建築専攻/インテリアデザイン専攻)

世界劇場会議名古屋フォーラムの副実行委員長を務めました

6月1日(金)、愛知産業労働センター「ウインクあいち」にて開催された世界劇場会議名古屋フォーラム「発信する劇場～音楽あふれるまち・豊中の挑戦～」で、中島准教授が副実行委員長を務めました。

本フォーラムでは、2017年1月に完成した大阪府豊中市の市立文化芸術センターを取り上げ、自治体文化政策や劇場建築、施設運営の視点から関係者の話がなされました。そして、音楽あふれるまちづくりを進めてきた豊中市が、プロのオーケストラを指定管理者の一人として迎え、個性豊かな劇場をめざし積極的に取り組んできた軌跡から学び、これからの地域劇場のあり方を考えることを目的として開催されました。

世界劇場会議名古屋
フォーラム2018
ホームページ

[http://itc-nagoya.com/
itc/international/forum/
details.php?bid=29](http://itc-nagoya.com/itc/international/forum/details.php?bid=29)



世界劇場会議名古屋フォーラム2018
発信する劇場
～音楽あふれるまち・豊中の挑戦～
2018年6月1日(金) 14:30～20:00(受付14:00～)
会場: 愛知産業労働センター「ウインクあいち」5階
(名古屋駅前通徒歩3分)
14:30 開会式・開会演説(会場:大ホール)90分
14:40～15:50 本講演 自治体文化政策の視座から見た劇場建築の発展に向けて
16:00～17:00 自治体文化政策の視座から見た劇場建築の発展に向けて
17:10～18:10 本講演 劇場建築の視座から見た自治体文化政策の発展に向けて
18:30～19:30 本講演 劇場建築の視座から見た自治体文化政策の発展に向けて
19:40～20:00 閉会式(会場:大ホール)90分

▲フォーラムのチラシ

船橋仁奈准教授
(建築学科 建築専攻/インテリアデザイン専攻)

WAN AWARDS 2017にて ファイナリストに選出されました

WAN AWARDS 2017にて船橋准教授がファイナリストに選出され、2月27日(火)にロンドンで開催されたWAN AWARDS CEREMONYに参加しました。

WAN AWARDSは、イギリスのWAN (WORLD ARCHITECTURE NEWS.COM)が主催する世界的な建築デザイン賞で、様々なカテゴリーで年間最優秀賞を選出します。CEREMONYでは、合計31の部門・プロジェクトにて最優秀賞が決定しました。

船橋准教授はNI&Co. ArchitectsとしてSMALL SPACE部門(狭小空間部門)にエントリーし、「PIANO HOUSE K.448」という作品でファイナリストに選出されました。残念ながら最優秀賞とはなりませんが、船橋准教授は「内外を連続させる防音壁、一体的につながった機能諸室、多様な反射効果を生む壁や天井、モノとコトの間に生じる不思議な境界、コストコントロールの手法など、そのいずれもがとても小さな空間だからこそ実現できた事です。それらの視点を評価して頂けたことを嬉しく思います。」とコメントを寄せています。



▲Ceremony会場の様子(船橋准教授の作品がモニターに映し出されています)

船橋准教授のエントリー作品紹介ページ
(WAN AWARDSのサイト)

[http://www.worldarchitecturenews.com/
project/2017/28210/wan-awards/
wan-small-spaces-permanent-2017-shortlist-announced.html](http://www.worldarchitecturenews.com/project/2017/28210/wan-awards/wan-small-spaces-permanent-2017-shortlist-announced.html)



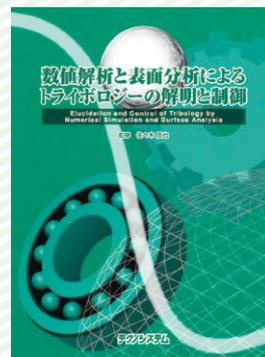
新刊紹介

『数値解析と表面分析によるトライボロジーの解明と制御』

共著:坪井涼准教授(機械工学科)

3月20日(火)に株式会社テクノシステムが発行した書籍『数値解析と表面分析によるトライボロジーの解明と制御』は、第1章から第10章までを142名で執筆しており、坪井准教授が「6章 数値解析 第5節 数値流体力学を用いた解析」の執筆を担当しました。

執筆者:142名
発行:株式会社テクノシステム
発刊日:2018年3月20日
B5・1192ページ
ISBN:9784924728806C3050
定価:48,000円(税別)



『きちんと知りたい においと臭気対策の基礎知識』

編著:光田恵教授、著:棚村壽三准教授、岩橋尊嗣特任教員(建築学科 かおりデザイン専攻)

かおりデザイン専攻の光田教授、棚村准教授、岩橋特任教員が執筆した書籍『きちんと知りたい においと臭気対策の基礎知識』が日刊工業新聞社より発刊されました。

においの専門家を目指す学生や企業の方に向けて、必要な内容を網羅し系統立ててやさしく詳しく解説しており、さらに国家資格である臭気判定士資格も意識し、必要な基礎知識を得られるようにまとめられています。

においのある化学物質とはなんであるのか、化学物質が鼻腔内を通過し、どのようにしてにおいという現象が起こっているのか、第1章では、におい物質について、第2章では、ヒトがにおいを感じるメカニズムについて解説されています。第3章では、不快なにおいの種類と屋外、室内のにおいに対する基準値について書かれ、第4章では、悪臭防止法に関連するにおいの測定・評価方法を中心に解説されています。また、安全で快適なおい環境を創造するためには、におい対策の基本的な考え方を把握しておく必要があることから、第5章では、身近な環境である室内のにおい対策の考え方を中心に解説し、第6章では、その考え方に基づいた実際の対策事例が紹介されています。



著者:光田恵(編著)、
棚村壽三、岩橋尊嗣(著)
出版社:日刊工業新聞社
発行日:2018年5月29日
216ページ
ISBN:978-4526078491
定価:2,300円(税別)

久保田稔名誉教授

皇太子さまに『船頭平閘門』を説明しました

5月21日(月)に愛知県愛西市の国重要文化財の水門『船頭平閘門』を視察された皇太子さまに、久保田名誉教授が説明をしました。久保田名誉教授は河川工学が専門で、『船頭平閘門』に180万個のレンガが使われている構造などについて皇太子さまに説明しました。『船頭平閘門』は水位の異なる木曾川と長良川の船の行き来を可能にする水門設備で、1902年に完成した日本近代の閘門史上、貴重な土木構造物です。

説明の様子は5月22日(火)付中日新聞に取り上げられ、久保田名誉教授は「私が話した内容は既にご存知の印象を受けた。楽しんで見学していただけたと思う」と振り返っていました。

▶5/22(火)付 中日新聞



光田恵教授(建築学科 かわりデザイン専攻)

学会誌で「特集:においの分析」を総括執筆しました

一般社団法人日本質量分析学会の学会誌に光田教授が総括執筆した「特集:においの分析」が掲載されました。

日本質量分析学会誌は1953年の創刊以来、日本における質量分析学の情報交換の場として、装置開発、イオン反応、同位体分析等の主に物理、化学の内容が多く取り上げられてきました。現在では、その内容は質量分析を使った基礎研究から応用研究にまで発展しています。

2018年2月号と4月号では、これまで質量分析が利用されているが、特集として取り上げられてこなかった「においの分析」の特集が生まれ、「香氣成分や食品異臭と質量分析」「センサと質量分析」など、最新技術の紹介や応用事例紹介などの内容でまとめられています。光田教授は2号にわたる本特集の総括を担当し、においの分析において忘れてはならないヒトの感覚に焦点をあて、ヒトと生活環境のにおいの関係について執筆しました。

全文はこちら:日本質量分析学会誌

Journal of the Mass Spectrometry Society of Japan, VOL.66.No.2,92-96,2018

<http://www.bunken.org/mssj/search/abst/201802/ms660092.html>

光田恵教授、棚村壽三准教授(建築学科 かわりデザイン専攻)

「空間模擬臭組成物およびそれを用いた評価方法」が特許登録されました

光田教授と棚村准教授が株式会社LIXILの研究者と共同で研究を進め、平成26年2月28日に出願した「空間模擬臭組成物およびそれを用いた評価方法」がこのたび、4月13日(金)に特許登録(特許第6322445号)されました。

生活環境の脱臭を行う際には、臭気発生源の臭気だけでなく、生活空間の建材、家具、生活用品等、臭気発生源が存在する空間内の物に起因する臭気が混合した複合臭気を考慮しないと、生活空間臭気として正確ではありません。

この発明では室内の複数のにおいに関して、模擬臭の組成を示し、その模擬臭を用いた評価方法を示したことにより、現場のにおいに近い複合臭での評価が可能となり、実際の性能を求めることができるようになります。また模擬臭を用いることで実験室での評価が可能となり、効果検証の正確性や評価のスピードについてメリットが生まれます。

山口一教授(建築学科 かわりデザイン専攻)

「公益社団法人 自動車技術会」で講演しました

4月6日(金)に、(公社)自動車技術会の主催する「第1回車室内環境技術部門委員会」にて山口教授が講演を行いました。

「車室内環境技術部門委員会」は、さまざまな技術分野の協調が必要不可欠である自動車空調について、共同研究・調査を実施し、最新情報の共有化・検討を行い、我が国の自動車空調技術の先進性を高めることを目的としています。

山口教授は、「半導体センサーによる臭気物質のモニタリングと対策一病室の事例を中心に」と題して、実際の建物への臭気に反応性を有する半導体センサーの導入を目指し、実用化に必要なセンサーの課題の検証と病室でのセンサーによる外気導入制御による悪臭対策についての基礎的検討について講演しました。これらの知見は、事務所ビル等、他の建物への応用も期待され、委員会には、自動車メーカー、自動車室内環境に関する電機メーカー・化学メーカー・環境測定機器メーカーなど50名程度の参加者があり盛会のうちに終了しました。

山口一教授(建築学科 かわりデザイン専攻)

「会話音声レベル通知システム及び会話音声レベル通知方法」に関する特許が登録されました

山口教授が清水建設(株)技術研究所に在籍していた平成26年5月7日に、他1名の研究員と共に申請した「会話音声レベル通知システム及び会話音声レベル通知方法」に関する特許がこのたび、3月2日(金)に特許登録(特許第6296291号)されました。

オフィス空間などにおいては、空調機器やOA機器が発する騒音や他者の電話や打ち合わせによる会話音声により、作業者が仕事に集中できず効率が低下する場合があります。また騒音や他者の会話音声に阻害されないように、作業者がより大きな声で会話を行うおとする結果、オフィス空間全体が喧騒化する恐れもあります。こうした状況を回避するため、この特許技術を用いれば、システムが音声レベルをセンサーで計測・予測し、会話音声の大きい作業員に対し自動的に警告を通知するため、音声レベルの抑制や、互いの音声次第に大きくなる現象を防止する効果が期待できます。

大東憲二教授(総合情報学科 経営情報専攻) 4/23(月)付中日新聞に 「知多半島生態系 ネットワーク協議会」での 活動が取り上げられました

4月23日(月)付中日新聞に「知多半島生態系ネットワーク協議会」での活動が取り上げられ、大東教授のコメントが掲載されました。

「知多半島生態系ネットワーク協議会」は、知多半島の生きものの生息・生育空間を適正に配置し、将来にわたって生物多様性の確保に寄与することを目的に活動しています。

記事では、東浦町緒川にある豊田自動織機の東浦工場内に、キツネなど野生動物の通り道となる「アニマルパス」が整備された旨が紹介され、この計画に協力した「知多半島生態系ネットワーク協議会」会長の大東教授が「知多半島に点在しているキツネの生息地をつなぐ道になれば」とコメントしています。



▲4/23(月)付 中日新聞

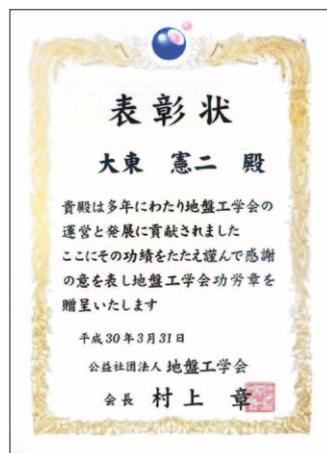
大東憲二教授(総合情報学科 経営情報専攻) 地盤工学会功労章を受章しました

4月20日(金)に名鉄ニューグランドホテルで開催された公益社団法人地盤工学会中部支部第62回通常総会において、大東教授が、多年にわたり地盤工学会の運営と発展に貢献したことを評価され、平成29年度功労章を受章しました。

大東教授は、35年以上にわたり土質工学会および地盤工学会に在籍し、環境地盤工学と地球環境問題に関する研究委員会や、地盤汚染の調査・予測・対策に関する研究委員会の刊行物や、地盤工学会編の書籍等の発刊に貢献しました。

その他、表層地盤情報データベース連携に関する研究委員会および全国電子地盤図の拡張と運用に関する研究委員会の委員として、地盤環境情報の整理と活用に、また、表彰委員会の委員として地盤工学会に貢献された方々の表彰選考や、中部支部選出の代議員として地盤工学会の活動の活性化に貢献してきました。

加えて、中部支部では、濃尾地盤研究委員会の委員、中部地盤研究会の副委員長およびデータベース部会長を務め、中部地域の地盤構造の研究活動に貢献し、平成13年には中部支部幹事長として、平成21年と22年の2年間は、中部支部の副支部長として活動し、現在でも中部支部評議員および地盤工学に関するセミナー部会委員として活動しています。



▲表彰状

澤岡昭名誉学長 4/24(火)読売新聞で 『ものづくり塾』が紹介されました

4月24日(火)付読売新聞で、澤岡昭名誉学長が実施する『ものづくり塾』を紹介する記事が掲載されました。

澤岡名誉学長を塾長とするこの『ものづくり塾』は、中部地区の製造業に従事される技術者に製造業の土台となる新素材について学んでもらうことを目的とした無料の通信講座です。月に1回、澤岡名誉学長が執筆したテキストをメールで受講者に送り、届いた質問に答えます。本学内でのスクーリングもありますが、基本的にメールでマンツーマンのやりとりをします。

昨年10月～今年3月まで開講され、2期目(7月～12月まで)となる今年の受講生が募集されました。

記事では1期目の受講者が充実した半年間の講座を振り返る様子とともに、「80歳を超えても教育の職人として、どこまでできるのかやってみよう」という澤岡名誉学長の教育者としての尽きない情熱がコメントとして掲載されました。

関連記事:

澤岡名誉学長による『ものづくり塾』～新素材の勘どころ～が開講されました

https://www.daido-news.jp/daido_news/event/post-61.html



▲4/24(火)付 読売新聞



建築学科 建築専攻/インテリアデザイン専攻、
情報デザイン学科 プロダクトデザイン専攻

ミラノ工科大学から 4名の先生が大同大学を訪問

2014年に本学を退官した笠嶋泰教授が始めた、建築学科建築専攻/インテリアデザイン専攻、情報デザイン学科プロダクトデザイン専攻(プロダクトデザイン専攻は



2015年から)とミラノ工科大学との連携授業『C-Scape』が、今年度で開始から10年を迎えるにあたり、ミラノ工科大学准教授 Luca.M.Fabris先生、助教授のCassandra Cozza先生、建築家のRiccardo Balzarotti先生、博士課程大学院生のGerardo Semprebonさんが4月4日(水)、本学を訪れました。

今回の訪問は『C-Scape』の10周年のお祝いと、本学での講義と講評会の開催、『C-Scape』の今年度の課題となる予定のロケーションである岐阜県白川町の事前視察のためです。白川町は特産品である東濃ヒノキを使った製品開発を本学のプロダクトデザイン専攻と昨年取り組んでいますが、今年度は『C-Scape』のロケーションになることで、東濃ヒノキの建築材としての新たな展開が



▲本学で開催した講義の様子

期待されます。4人の先生は長旅の疲れも見せず、久々の日本で見たことがないモノや場所に出会える喜びを隠せずワクワクしているようでした。4月6日(金)には岐阜県白川町を訪問し、白川町のロケーションとしての可能性や東濃ヒノキの活用法を探りました。今年度の『C-Scape』が、今後どんな展開を見せるのか、目が離せません。

関連記事:

白川町の特産ヒノキの商品化に取り組んでいます
(プロダクトデザイン専攻)

https://www.daido-news.jp/daido_news/teacher/post-62.html



第一回大同大学大学院奨励賞 授与式を行いました

6月12日(火)学長室にて、第一回大同大学大学院奨励賞 授与式が行われました。奨励賞は研究活動において、特に顕著な業績を収めた人が対象となります。

記念すべき第一回目の今回は、既に修了した人を含む4名に奨励賞が贈られました。授与式には4名の代表として、大学院 工学研究科 修士課程 機械工学専攻 2年の田中隆太郎さんが出席し、学長より奨励賞の楯を授与されました。

田中さんは「このような賞をいただけるのは、指導教員の宮本先生をはじめとする、先生方、研究室の仲間などたくさんの方々のおかげです。今後も期待に応えられるように、精進してまいります」とコメントしました。

◆平成29年度 大同大学大学院奨励賞 受賞者

- 機械工学専攻 2年 伊藤 由華さん(平成30年3月修了)
受賞理由: 国際学会誌への論文掲載決定
- 機械工学専攻 2年 城所 裕真さん(平成30年3月修了)
受賞理由: 学会発表における優秀ポスター賞の受賞
- 機械工学専攻 2年 神野 翔さん(平成30年3月修了)
受賞理由: 学会における優秀講演賞の受賞
- 機械工学専攻 1年 田中 隆太郎さん
受賞理由: 学会発表における最優秀ポスター賞の受賞



▲学長室にて(中央:田中さん)

オリエンテーション合宿を行いました

4月5日(木)~6日(金)と4月6日(金)~7日(土)、静岡県浜松市で新入生オリエンテーション合宿を機械工学科、機械システム工学科、建築学科 建築専攻/インテリアデザイン専攻、土木・環境専攻、情報デザイン学科、総合情報学科の学生を対象に行いました。

このオリエンテーション合宿は、1泊2日の共同生活を通して、学生同士のコミュニケーションの向上や、今後の大学生活をより充実したものにするを目的として行われています。他己紹介やクイズ大会などを通して、初めは緊張していた学生たちも徐々にお互いに打ち解けていき、楽しんでいる様子が見られました。

これから4年間、多くの人たちと交流し、大学生活をより充実したものにして下さい。



写真提供: アルバム委員会